

シラバス参照

開講年度	2007
科目名	コンピュータと経済学
職名／担当教員	望月 宏
期間／曜日／時限	通年 水曜日 4時限
開講区分／校舎	生田校舎
配 当	E 2 3, W 2 3 4
単 位	4

講義内容	<p><講義概要> 現代の経済社会の分析には多くの経済データを利用することができるようになり、それとともにこれらを迅速に処理するコンピュータが様々な分野で活用されるようになった。経済白書における回帰分析を使った経済分析などはその代表的なものである。その意味で、コンピュータシステムの理解と、それを利用した経済分析の手法を学ぶことはますます重要になりつつある。そのため、この講座はコンピュータを利用して実際に自分で基礎的な経済分析ができるようになることを目的とする。授業はコンピュータシステムの理解、表計算言語の習得に始まり、経済理論、統計学、数学の理解の上になった経済分析を行うため、内容が多岐にわたる。今年は、回帰分析を中心しつつも、季節調整、産業連関分析、因子分析など幅広い経済分析を学ぶ。なお、インターネットを授業におけるコミュニケーション、情報の収集、発信に積極的に活用する。</p> <p><講義計画> コンピュータシステムの理解 …大型コンピュータとパーソナルコンピュータ …オペレーティングシステム 表計算のソフトウェアの理解 …EXCELの操作 …季節調整分析 計量経済分析に必要な統計、数学（初級） …最小二乗法、正規方程式、微分 …パラメーター検定 表計算言語による計量経済分析のプログラミング 簡単なマクロ経済モデリング 計量経済分析用ソフトウェアの理解 計量経済分析用ソフトウェアを使った経済分析の実践 産業連関分析 因子分析 インターネットへのアクセス</p> <p><教科書> 宮川公男著、『計量経済学入門』、日本経済新聞社 唯是康彦著、『EXCELで学ぶ計量経済学入門』、東洋経済新報社</p>
成績評価方法・基準	授業への全回出席を最低条件とした上で、随時の宿題、前期レポートの評価が全体の75%、そしてコンピュータを使用した最終試験が25%をめぐりて採点する。
履修上の留意点	<p><受講前提条件・関連科目> 「現代の経済と経済学」もしくは「経済原論ⅠB」、「経済政策」、「経済統計学」、「経済数学」等関連の授業を良く理解しておくこと。コンピュータに関する知識や利用経験は問わない。 積極的な授業態度と、毎回の授業への出席は必須条件である。 履修希望者多数の場合は、第1回目の授業時に選抜テストを行います。</p>
担当教員へのアクセス	

その他	
更新日付	2007/02/10 00:05